

群青 6月号

串木野高等学校図書館
令和5年6月2日発行



新緑の季節から紫陽花の季節へ、梅雨入りして雨の日が増えそうです。
気温や湿度が高くなって、身体の不調を感じたり疲れやすかったり……。
なんとなく体調や気分が優れないとき、図書館で過ごしてみても如何でしょう。海や本を眺めてゆっくり、のんびり、静かな時間を過ごせますよ。



映画化原作本 読んでみませんか

★銀河鉄道の父

門井 慶喜



父の愛, 家族の愛を強く感じて, 宮沢賢治の作品を今までと違う感覚で読めそうです。

★少女は卒業しない

浅井 リョウ



廃校が決まった高校の取り壊し前日の卒業式。短編連作で身近な話題が読みやすそうです。

★ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい

大前 粟生






ぬいぐるみと話すサークル“ぬいサー”。
「つらいことがあったらだれかに話した方がいい。……だからおれたちはぬいぐるみとしゃべろう。」

★交換ウソ日記

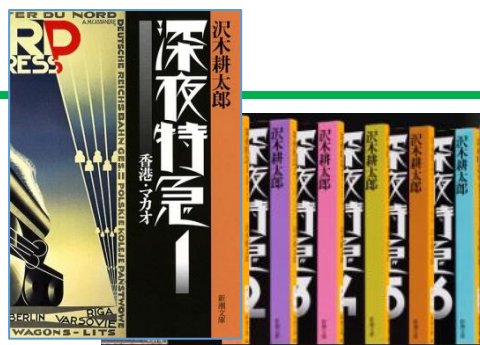
櫻 いいよ



堂園校長先生 おすすめの本

書名  深夜特急(しんやとつきゅう)
著者名  沢木耕太郎(さわきこうたろう)
分野  紀行文

お薦めポイント



テレビでよく見る有吉弘行(ありよしひろいき)という芸人は多分知っていますよね?しかし、今は解散したのですが、昔、森脇和成(もりわきかずなり)と二人で猿岩石(さるがんせき)というお笑いコンビを組んでいたことは知っていますか。更に、進め!電波少年というテレビ番組を知っているかな。はちゃめちゃなアポなし企画などで視聴率も高かったですが、今ではコンプライアンスに問題ある部分が多いに違いありません。

で、その番組に「ユーラシア大陸横断ヒッチハイクの旅」という無茶ぶりなコーナーがあり、そこで猿岩石、有吉という芸人がブレイクしたというわけです。その番組は後にやらせ疑惑もあり、バラエティ番組だからいいのだ、という開き直りも見受けられながらも、当時のヒッチハイカーやバックパッカー、旅人には大きな影響を与えました。

さて前置きが長くなりました。現代から1996年までを一気に遡ってみました。その有吉の猿岩石ユーラシア大陸横断ヒッチハイクの旅の元ネタが、もう一息1990年台の始めまで遡り、この沢木の「深夜特急」という本なのです。

簡単に本の紹介をすると、インドのデリーからイギリスのロンドンまでを、バスだけを使って一人旅するという筆者自身の旅行体験に基づく紀行文であり、旅人の間ではバイブル的に扱われた書籍です。ストップオーバーという航空券でデリーに行く前の熱量の高い香港の街の様子も興味をひかれるところです。沢木耕太郎の身軽で自由な動きと人との新たな出会い、それは生きるということを感じさせる旅の記録そのもののようによいと思います。

この数年は、コロナ禍もあり海外旅行なんてとんでもないという風潮がありましたが、日本の文学史上、奥の細道を代表とする紀行文・旅行記というジャンルは、日本人の持つアドベンチャー精神に依って成り立っているように思えます。鹿児島は特に日本の最南端であり、飛行機の無い時代は、まさに海外に開けた土地であり、奄美や沖縄、琉球の歴史の中には、薩摩が大きな役割を演じていました。鹿児島が船での玄関口になっていたのは、南に開けた絶好の旅の出発点であったからでしょう。羽島の薩摩英国留学生たちの鹿児島中央駅前「若き薩摩の群像」も、それを示していると思います。

皆さん、例えば電車に乗るとき、長距離バスに乗るとき、どうしていますか?すぐに車内で寝てしまう人もよく見ますが、僕は車窓からの風景が楽しみで、子供のように窓から外を眺めます。そんなときに、深夜特急でアジアを揺られるバスの中から眺めた沢木の文を思い出すのです。自分が旅に出ているから文を思い出すのか、そういった文を読んでいたから旅に出ているのか…。

旅の本をさらに遡ると、小田実(おだまこと)の「何でも見てやろう」という本も旅人のバイブルになっています。1ドルが360円の時代に、1日1ドルで切り詰めて旅を続け、文字通り何でも見てやろうという精神はチャレンジ精神の塊で偉大なものがあります。他にも、旅本として旅情を掻き立てるものをいくつか紹介しておきます。「旅のつばくろ」「旅の窓」沢木耕太郎、「新ゴーゴー・インド」蔵前仁一、「バックパッカー・パラダイス—旅人楽園」さいとう夫婦、「旅のラゴス」筒井康隆、「週末アジアでちょっと幸せ」下川裕治、「ブラを捨て旅に出よう 貧乏乙女の“世界一周”旅行記」歩りえこ たくさんあります。

本を読みながら旅の気分を味わってははどうでしょう。見分を広めるという意味では、旅も読書も生きるということも、全てシノニム(同義語)です。本を読むことで新たな気づきがありますよ。

図書館にあります。
予約を受け付けます。

